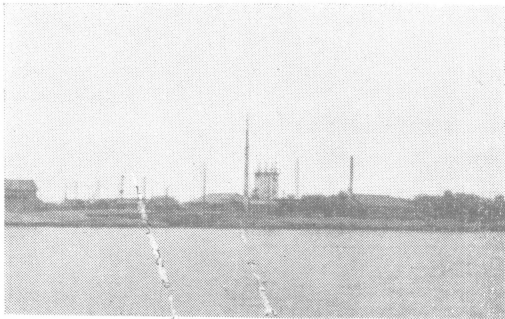


## 地方だより

### △…新潟地方気象台…△

7月1日は新潟地方気象台の創立記念日である。今から75年前明治14年に新潟測候所として誕生した日を記念しているのである。当時の測候所は今の大学病院の附近



信濃川畔に建つ現庁舎（昭和31年7月11日撮影）

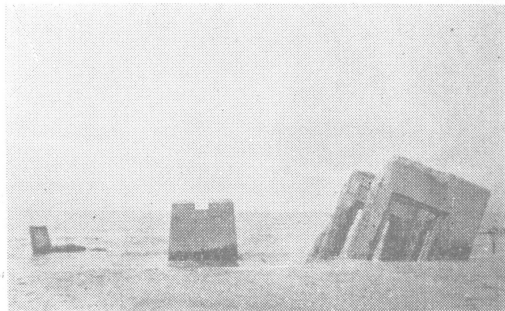
にあったと聞くがその後3回移転して昭和13年今の場所に移ったのである。この前の測候所の残骸は、海岸欠潰のため今は全く海水の洗うにまかせて哀れな姿を止めているが数年をまたずしてその姿を投してしまう事であろう。新潟海岸の欠潰は大河津分水完成に伴って信濃川の流出土砂の減小と、突堤による沿岸流による浸蝕作用によるものと考えられ県もその対策に本腰を入れて来たが最近大規模な護岸工事が完成して小康を得ている。

新潟は開港場として明治元年以来日本の五つの港の一つに算えられて来た港であり、現在は人口26万を算える大都市となっている。柳都新潟とよばれるに適はしく縦横に交通する堀割には柳の並木が美しい。昨年未曾有の大火にあってその中心街が焼野が原になり惨たんたる光景を呈したが、復興の勢も又目覚しく、鉄筋コンクリートの高層建築が競い建ち1年をまたず既に面目を一新するにいたっている。新潟地方気象台はこの繁華街とは信濃川を距てて対岸になっているがバスの便がよいのであまり不便は感じない。駅から役所までバスで3分歩いて15分といえは気象官署としては便利な方ではなからう



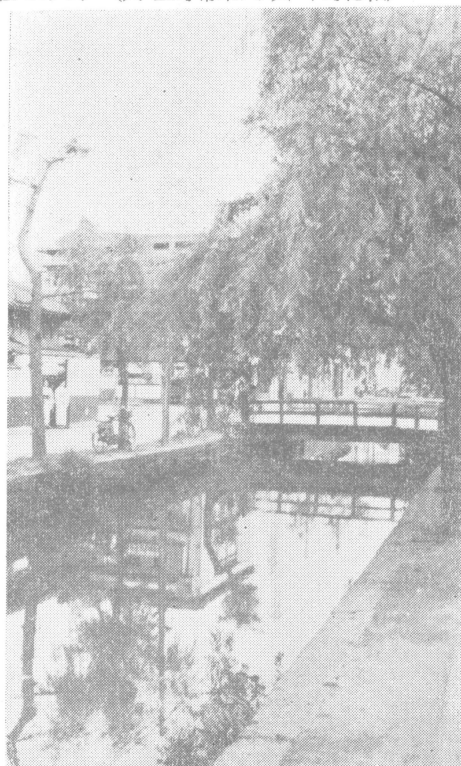
崩壊した正面玄関（昭和31年7月7日撮影）

か。雪の新潟として有名であるがバスが止るなどという事はほとんどない。冬期は風が強いが馴れてしまえばそれ程でもない。気温は東京と変らないが夏の最高気温は39.1°Cという全国第2位の記録をもっている。しかし川も近いし海も近いので凌ぎよいのである。海岸の砂丘に立つと佐渡が夢の様にうかんでいる。佐渡汽船はゆめじ丸、おげさ丸、こがね丸の3隻で運行しているが夏には往復の回数を増して観光客にサービスをしている。夏の



海中に没した旧測候所全貌（昭和31年7月7日撮影）

夜の見物は信濃川の花火であろう。毎年8月下旬に行われるこの川祭りには近隣からの客で街中身動きも出来ない程の人出がある。両国の花火にひびきすると言う人もあるが、実際花火は素晴らしい。気象台はこの花火を満喫出来る位置にあるが唯少し近すぎて首筋がいたくなる程である。（文・星野常雄、写真・中野徳治）



柳並木（西堀通り附近）（昭和31年7月7日撮影）